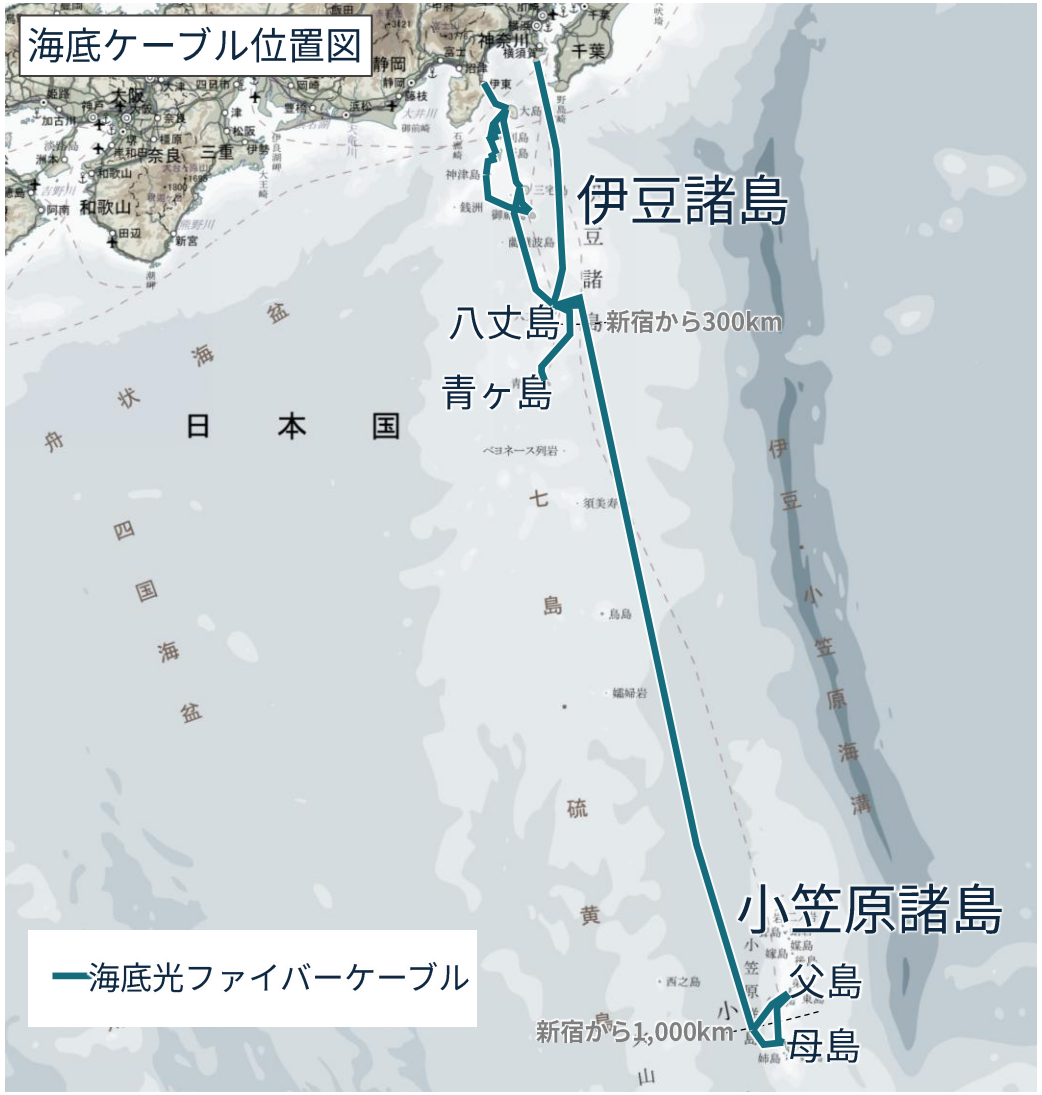
東京都島しょ地域における海底光ファイバーケーブルの今後の方向性（概要）

第１　なぜ新たな取組が必要なのか

（1/2）



出典：国土地理院地図を加工して作成

海底光ファイバーケーブルの役割

- 本土と離島、離島間を結ぶ高速・大容量の**基幹通信網**
- 固定通信や携帯電話のほか、**行政、医療、教育、産業活動を支える**

繰り返し発生している通信途絶

- 台風常襲、急峻な海底地形、厳しい波浪等の自然条件により、通信途絶につながる海底ケーブルの断線が発生
- 新島・式根島・神津島で**最大40日間通信途絶**（令和元年12月）

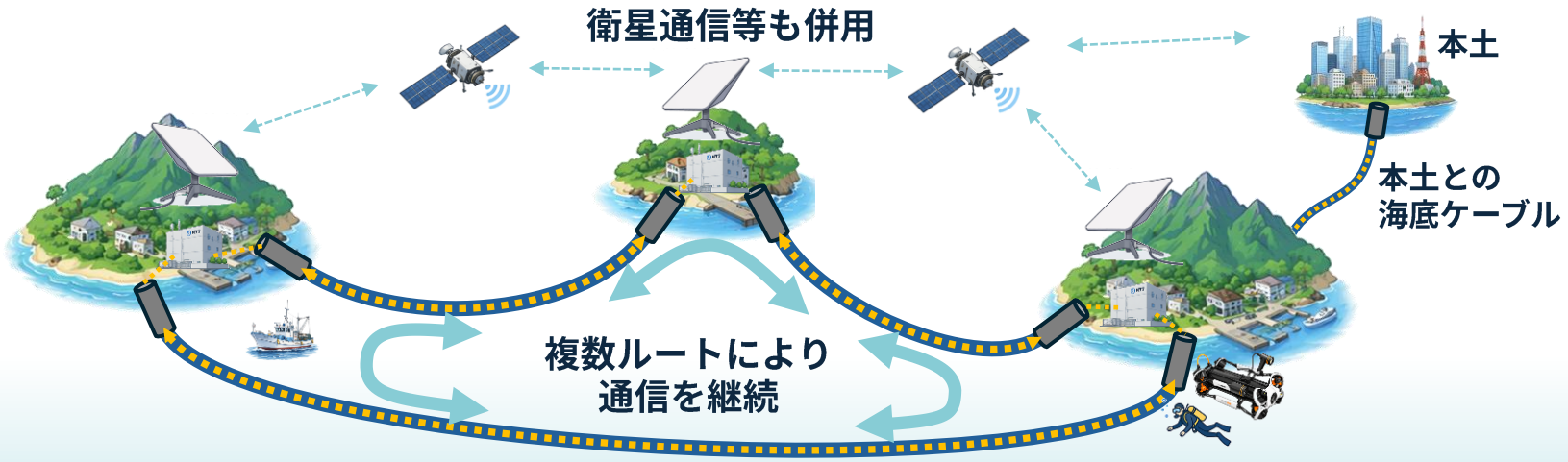
現在直面する課題

01　八丈島以南に単一ルート区間が残る
単一ルート区間では、ケーブル断線が通信途絶に直結

02　設備が継続的に損傷リスクにさらされる
波浪・潮流等の外力により、摩耗や断線のリスクが継続

03　複数経路が同時に使えなくなる可能性が残る
大規模災害等のリスクは、海底ケーブルだけでは除けない

目指す姿　いつでも安定して使え、いざというときも必要不可欠な通信がつながる



戦略1 通信経路の複数化
断線時にも通信を継続する

戦略2 設備の予防保全
損傷リスクを低減する

戦略3 異なる通信手段による補完
途絶時にも必要不可欠な
通信を確保する

戦略の実現に向けた今後の取組

町村・通信事業者等との協調　　国と連携した推進